

オーケストラと 共演するのが夢

雲 竜 笙 子 さん(8)=元町2=

自分と同じくらいの大きさのチェロを抱えて上手に演奏する雲竜笙子さんは、成器南小学校の2年生です。3歳の頃から、白山市にお住まいの野村幸夫さんに師事し、チェロを習い始めました。毎週金曜日に野村さんのもとに出かけ、約1時間のレッスンを受けます。最近はビブラート（指で弦をおさえたまま、上下に震わせる技巧）をかける練習に励み、音の表現に幅を出そうとがんばっているとのこと、演奏曲は「プレバールソナタ」。

8月には日本クラシック音楽コンクール予選に合格し、10月には福井県音楽コンクールで奨励賞を受賞するなど、確実に実力が付いてきています。これからは、県外のコンクールにも挑戦し、腕を磨いていきたいとのこと。

さらに深く音楽を知り親しむために、「3年生になったらハーモニーホールで行われる『弦楽アンサンブルセミナー』を受講したい。」と夢いっぴいの雲竜笙子さんでした。



出会い ふれあい

仲間 GROUP



30年前に婦人の体力向上とバドミントン普及を目的としたバドミントン協会主催の教室が開催され、その中の愛好者たちで設立したクラブが、『勝山スマッシュクラブ』（杉本弘子会長）です。婦人だけのクラブから、老若男女誰もが会員になれるように会則を改め変身したのが、平成2年。設立から30周年を迎える今年、記念大会や記念パーティーを計画しています。

「できる限り地域の大会に多数参加する」、「バドミントン教室には指導者として協力する」、「バドミントンに興味のあるかたを勧誘しバドミントンの普及に努める」などの方針に基づいて活動しています。そして、県内の各種大会に参加して優秀な成績を収める一方で、納涼親睦会や忘年会などの会員相互の親睦を大切にしています。そんな活動が評価され、平成7年には、社会体育優良団体として、文部大臣表彰を受けました。

クラブ創立30周年を迎える

勝山スマッシュクラブ

現在、勝山スマッシュクラブには、20代から70代までの幅広い年齢層から男性9名女性10名が会員となり、和気あいあいと練習に励んでいます。そして、来た人順に練習を始めるとは、30年間守り続けたルール。これが、家庭的な雰囲気のあるクラブが存続した要因だとクラブのかたは、自負しています。

勝山スマッシュクラブでは、「技術強化、体力づくり、趣味と人それぞれ目標や思いを達成するために、クラブ活動をどうしたらいいか」が今後の課題として、「40周年に向けてさらに努力したい」と息の長い活動への意欲を示されました。

50回を記念して、聖火リレー

10月15日に、町民運動会が、抜けるような秋空のもと市内各地で行われました。

勝山地区では、今年が第50回の記念すべき大会となったことから、勝山地区内の各区をつなぐ約6kmのコースで「全町内巡回聖火リレー」を行い、50周年を祝いました。

聖火は、元禄地区から選出された聖火ランナー7名が、沿道の声援と拍手を受けながら、午前8時頃に教育会館を出発。当該リレーの総括である丸屋仁志さんが自転車で誘導していき、各区から選出の聖火ランナーにそれぞれ聖火が手渡され、運動会会場となる成器西小学校グラウンドまで、大事に運ばれました。

会場ゲートでは、聖火が昭和町の子どもらによる聖火ランナーから、中村さゆみ競技委員長に手渡され、約1,500名の大会参加者が見守る中、聖火台までグラウンドを周回しました。そして、和田雅弘名誉大会長がそれを受け継ぎ、聖火台に点火すると、会場からは盛大な拍手が送られ、選手団の心は大きく一つにまとまり、記念すべき大会の幕が切っておとされました。



大勢の大会参加者が見つめる中、聖火が点火される

昼休みの休憩時には、成器西小学校児童による吹奏楽とバトントワリングが披露され、記念大会に華を添えました。



かぼちゃを彫ってジャコランを作る様子を見守る子どもたち

「Trick or Treat!」(訳:何かくれないといたずらするぞ!)と叫び、お菓子をもらう場面もありました。

弟さんと参加した野村倫佳さん(成器南小4年)は、「ハロウィンのことを知りたくて参加しました。オバケ屋敷では、逆にオバケを驚かせました。ジャコランや仮装のお面づくりなども楽しかったです。」と満面に笑みを浮かべていました。



秋季消防訓練

勝山市では、明治29年に発生した大火災を教訓として、火災の起きた4月13日と半年後の10月13日に消防訓練を行っており、毎月13日は「市民防火の日」と定めています。今回の秋季消防訓練では、遅羽町北山区から出火し、山林や工業団地へと延焼拡大の様相を呈したとの想定で行われました。消防本部の指令により全分団および自衛消防隊などが招集され、緊張感のあるきびきびとした動きで防ぎよ訓練を行い、災害に対する防ぎよ活動の確立をはかりました。また、防災ヘリによる山林火災を想定した散水もあり、まさに本番さながらの訓練となりました。

その後、今年の福井県消防操法大会ポンプ車の部で3位入賞を果たした第6分団(村岡町)による操法披露や、全分団による一斉放水があり、防災に対する意識や技術の高さを再確認すると共に、市民に対して警火心の高揚をはかっていました。

これからの季節、乾燥や強風による火災発生の恐れがあります。火の始末には十分気を付けましょう。



全分団による一斉放水の様子



大盛況の ハロウィン・パーティー

アメリカの伝統的な祭日の一つであるハロウィンの面白さを体験してもらおうと、10月28日に、教育会館で「ハロウィン・パーティー」が開催されました。当日は、約70名の小中学生が参加し、大盛況となりました。

ハロウィンとは、過去に亡くなった人がよみがえると考えられている万聖節の前夜祭にあたる行事で、10月31日に行われます。

国際交流員のデビット・ティアニーさんは、勝山、大野のALT5名、ボランティアの石井翔子さん(勝山高校3年)の協力のもと、参加した子どもたち、ジャック・オランタン(ちようちんのジャック)に、「ジャック・オランタン」づくりや、仮装、オバケ屋敷などを体験してもらいました。

中には、顔にドクロやこもりを描いたり猫や狐に扮してひげを描いたりする子もいて、一緒に参加した保護者のかたは楽しそうにはしゃぐ子どもの様子に目を細めていました。また、中央公園では、仮装した国際交流員らに、「Trick or Treat!」(訳:何かくれないといたずらするぞ!)と叫び、お菓子をもらう場面もありました。

弟さんと参加した野村倫佳さん(成器南小4年)は、「ハロウィンのことを知りたくて参加しました。オバケ屋敷では、逆にオバケを驚かせました。ジャコランや仮装のお面づくりなども楽しかったです。」と満面に笑みを浮かべていました。